

かんしょの晩植無マルチ栽培における種いも生産

本県主力品種「コガネセンガン」（醸造用）、「宮崎紅」（青果用）とも可能

背景・目的

- 種いも用かんしょの植付は、出荷用の植付終了後の5月下旬以降に行うのが一般的です。
- また、雑草の抑制や肥料の流亡を防ぐため、マルチを張るのが慣例となっています。
- しかし、この作型（晩植）では生育期に高地温になりやすく、いもの形状の乱れが問題となっています。
- そこで、種いもの安定生産のため、晩植無マルチ栽培を検討しました。

成果の内容

- 晩植の「コガネセンガン」は、無マルチ栽培で種いも収量は91～152kg/aとなり、約350～650個/aの種いもが確保できます（表1）が、マルチ栽培では形状不良等により正常いもが著しく少なく、種いもは確保できません（図1）。
- 晩植の「宮崎紅」は、無マルチ栽培で131kg/a、530個/aの種いもが確保できます（表1）。
- また、種いもに適する紡錘形～長紡錘形の割合は72%となります（図2）。

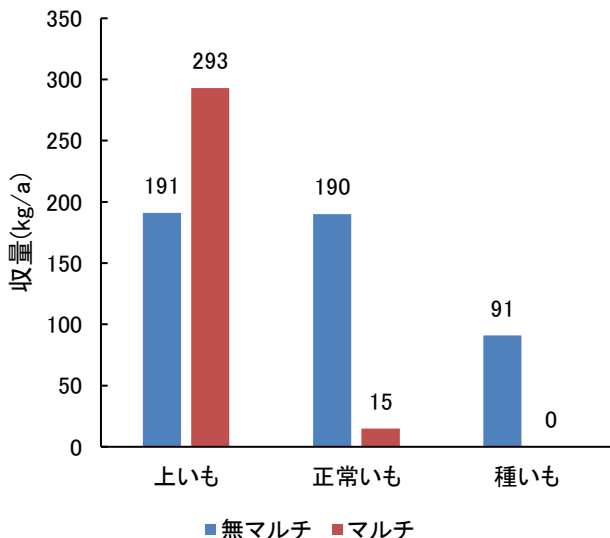


図1 晩植「コガネセンガン」の収量 (2018年)

注) 上いも : 50g以上
 正常いも : 上いもから裂開、ゴボウ根、形状不良等を除いたもの
 種いも : 正常いものうち150～350gのもの

表1 晩植無マルチ栽培での種いも収量

品種	年	植付日	収量(kg/a)	個数(個/a)	歩留まり(%)
コガネセンガン	2018	7/13	91	375	48
	2019	6/27	105	445	29
	2020	5/29	152	686	45
	2020	6/24	118	526	52
宮崎紅	2020	7/2	131	530	56

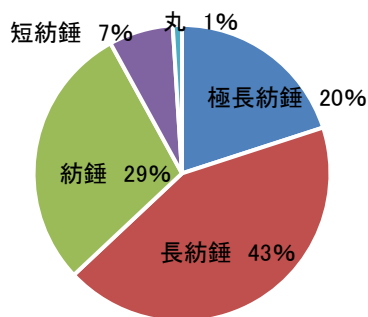


図2 晩植無マルチ栽培「宮崎紅」の形状 (2018年)

成果の活用方法と期待される効果

- 種いもの安定生産が可能となります。また、サツマイモ基腐病対策としても期待できます。
- 普及対象地域・面積 南那珂地域、他 5 ha (種いも生産面積)

留意点

- 大雨により畦が崩壊した場合は、培土を行う必要があります。
- 雑草対策のため、除草剤の施用が必要です。